

# 学習者作文コーパスの教室活動における活用例

トリチコヴィッチ・ディヴナ（ベオグラード大学）  
divna.trickovic@gmail.com

宮野谷 希（サラエボ大学）  
n.miyanoya@gmail.com

## 【要約】

本論文では、複言語・複文化環境下にある日本語教育現場で、学習者作文コーパスをどのように活用できるか、実践報告を通し分析、考察している。「住みやすい国」コーパスを用いた読解活動として、良い作文とは何かアンケート調査を行い、コーパスから抽出した学習者の作文を読解、評価させ、ディスカッションを行った。その結果、本コーパスの活用は、様々な背景を持つ他者視点の経験を得ること、自分自身を内省する機会を得ること、様々な語彙の使い方や異なる表現方法の経験を得ることに貢献しうることが示された。

本論文はベオグラード大学とサラエボ大学で実施された学習者作文コーパスの教室活動について報告する。まず、使用したコーパスについての説明と背景について説明してから、今回これを活用した教室活動をするに至った理由をより具体的に述べる。その後で、活動の流れを詳しく説明し、実施したアンケートなどの分析を紹介する。最後にまとめを述べた上で、今後の課題につなげる。

## 1. コーパスの紹介と活動の背景

ミュンヘン大学の村田氏が代表をつとめる「住みやすい国プロジェクト」では、「住みやすい国の条件と理由」をテーマに、母語話者及び日本語学習者の作文を収集、コーパス化して、オンライン上に公開している。このコーパスに基づいてすでにいくつかの研究が行われている（村田他 2022、村田他 2024）。執筆時現在このプロジェクトではドイツ、スロベニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ（以下ボスニア）、クロアチア、日本、フランスの合計 6 か国から作文が集まっている。

コーパスは様々な用途に使われうるが、ほとんどの場合、使用者は研究者か教師で、学生にはあまり知られていない（迫田 2018、李他 2018、野田 & 迫田 2019）。コーパス研究への貢献について、村田他（2022 : 285）では次のように考察している：

「これまで産出される言語形式の実態を研究する目的で利用されることが多かったコーパスを教材として用いることで、例えば、データ駆動型学習の日本語教育や異文化理解のための教材につなげていくことができると考えている。」（村田他 2022 : 285）

同じく、村田他（2022）では以下のように本コーパスの貢献の可能性について 3 点述べている。

「本研究は、(1) 複言語・複文化能力構築へ次の 3 点で貢献できると考えている。

1 つ目は、様々な背景を持つ他者視点の経験を得ることである。例えば、本研究で扱った学生の作文は、彼らが他者の考え方に触れ、自分の考え方や見方が唯一のものではないということを見出せる教材として利用できるものである。

2 つ目は、自分自身を内省する機会を得ることである。「住みやすい国」という課題で書いた作文とそこで彼らが使用した語を他者と比べることで、自分の言語や自分の文化アイデンティティを構築できるものである。

そして、3 つ目は、様々な語彙の使い方や異なる表現方法の経験を得ることである。特に作文を書いた日本語学習者たちは、自分の作文と他者の作文を比べることで、目標言語のしくみや特徴、他者や自分が使っていることばの類似点や相違点を見出せるものとして利用できるものと考えている。」(村田他 2022 : 284)

本稿で報告する活動は、以上の点に注目し、実際に本コーパスのデータを教室活動に取り入れ、効果を確認しようとするものである。

本コーパスのデータを収集した際、我々教師としても、集まった作文を読み「住みやすい国とは」というテーマについて深く考えさせられた。そこで、他の地域、文化からの作文を読むことで、学習者にも教室活動の中で新しい刺激を与えられるのではないかと考えた。そして、私たちが「コーパスを教材として用いることで、…日本語教育や異文化理解のための教材につなげてい (ibid)」けるということを試みた。

このような目的のもと、ベオグラード大学文学部日本語専攻3・4年生の学生16名、及びサラエボ大学哲学部市民日本語講座に通う中上級レベルの学生3名をそれぞれ集めて、1時間半の授業の枠で、「住みやすい国コーパス」から選んだ作文を読み、「良い作文」とは何か考えるという活動を行った。

活動の流れは次の通り：最初にウォーミングアップとして母語と日本語で学生たちと「良い作文の条件」について簡単にディスカッションし、作文の書き方に関する意識を調査する事前アンケートをさせた。その後、メインの活動では、作文を複数読ませて、読んだ作文を、特に作文の「良さ」を観点に評価シートで評価してもらった。その後、ディスカッションの時間を設けた。最後に、事前アンケートと同じアンケートをもう一度させ、さらに、この活動全体に関するアンケートも行った。

実施日はセルビアでは5月25日で、対面で16人の学生が参加した。ボスニア・ヘルツェゴビナでは6月6日に実施され、受講生3人がオンラインで参加した。

## 2. 活動内容について

### 2.1 ウォーミングアップ

良い作文の条件とは何か、またどれほど他の国の学習者の作文を読むことに興味があるか、今までの教育で作文の書き方についてどのようになってきたか、など、教育上で何度も書いたことのある作文そのものをテーマに、10分ほど意見交換をさせた。

### 2.2 事前アンケート

意見交換の後、良い作文の条件についてアンケートを行った。①言語の正しさ、②文章構成の良さ、③アイデアの新しさ、④内容のわかりやすさ、⑤内容の面白さの5つの項目について、良い作文を書くためにそれぞれどの程度大切だと思うか、5段階(1が一番低く、5が一番高い)で評価してもらった。

次のグラフはセルビアとボスニアの結果を合わせたものである。

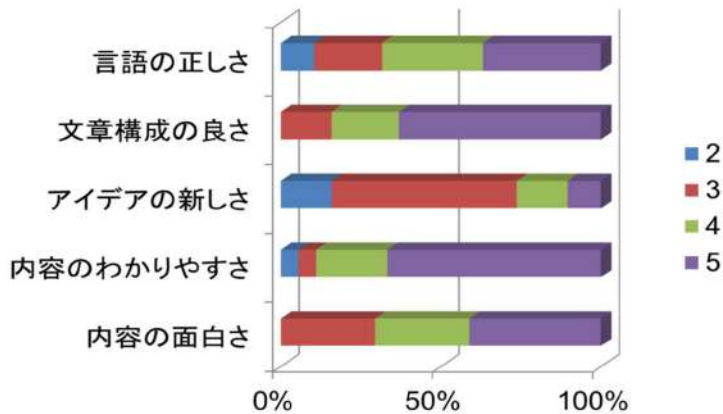


図1：よい作文の条件

図1の通り、内容のわかりやすさが一番大切だと評価されている。面白いことに、その次に来るのは文章構成の良さだということだ。言葉の正しさはあまりここでは重要視されていないようだが、アイデアの新しさがそれ以下だったのには少し驚いた。

その他の意見では、テーマについての深い理解が見られること、語彙が豊かなこと、表現の面白さ（テーマが面白くても同じ言葉が繰り返されていたらつまらない）などの意見が見られた。

## 2.3 読解活動

ここでは、読解に使用した作文と、評価シートの質問事項、及びその分析について述べる。

### 2.3.1 使用した作文について

読ませた作文は、コーパス参加国の中から1カ国ずつ、ほとんど無作為に選択したが、今回の教室活動に参加している本人の作文は避けた。また、例えば、「住みやすい国はカナダです」といったように、具体的な国についてだけ述べている作文を避けた。

中級といっても学生のレベルがいろいろなので、漢字にはフリガナを付け加えた。

01.

「あなたの国は住みやすい国ですか」と聞かれる時は「こうだったらいいのに」とか「これを変えられたらいいのに」と思って

しまう人がたくさんいると思います。私もその一人です。誰かに「住みやすい国とは」と聞くと色々思い浮かびます。

最初に思い浮かぶのは「医療制度無料の国」と「環境先進国」です。食事や運動で治らない病気がある

限り、医療は無料であるべきだと私は思います。健康でなければ何も出来ないからです。健全な自然環境もすぐ

く大事です。

次に思い浮かぶのは「教育費無料の国」です。お金がないせいで教育を受けなくなるのが残念なことです。誰にでも教育を受ける権利があると思います。教育を受けた人が少ない国は発展できません。特に技術的に。

技術と言えば、最近人間の代わりに仕事をしている機械が多いじゃないですか？そのせいで仕事を見つからない

中年者が多いです。経験がないから仕事を中々見つからない若者も多いです。働かないでお金を稼ぐことはできないし、お金がないと生活が大変になるし、大きな問題です。最後に思い浮かぶのは「生活費が高すぎない、仕事の見つけやすい国」です。

図2：読ませた作文の例

### 2.3.2. 読解活動と作文の評価

以上の作文6つを時間内に出来るだけ多く読んでもらった上で、評価シートにて読んだ作文を一つ一つ作文ごとに評価してもらった。評価シートの項目は図3の通りで、事前アンケートと同じ項目5つに、その作文の全体的な印象をつけ加えた。いい作文とは何かを想像したときの評価と、実際の作文を読んだ場合の評価は同じなのかを確認したかったからだ。

大体30分間で学生たちは少なくとも2つの作文を読んだが、多くの学生がそれ以上読んで、6つ全部読んだ学生も少なくなかった。作文自体の評価にバイアスがかからないように、学生にはどの作文がどの国からなのかは教えなかった。読む作文を彼らが自分で選択した。ボスニアの場合は学生が少なかったため読む作文をあらかじめ割り当てて読んでもらい、余裕があれば他の作文も読むように指示をした。

作文評価シートは全部で 64 の回答が集まった。それぞれの作文の評価項目ごとの分析をまとめたグラフは次の通り。

	全般的な作文の印象	内容の面白さ	アイデアの新しさ・ユニークさ	構成の良さ	言語の正しさ	内容のわかりやすさ	平均
1 (BOS05)	3.71	4.00	2.43	4.29	3.86	4.57	3.83
2 (SER26)	3.91	4.09	2.82	3.55	4.27	4.18	3.78
3 (JAP08)	3.91	3.91	3.64	3.18	4.18	3.36	3.65
4 (GER59)	4.00	3.85	2.92	4.00	4.31	4.46	3.91
5 (SLO09)	2.09	2.55	2.55	2.55	2.64	4.18	2.89
6 (CRO35)	3.82	4.00	3.64	4.18	3.00	4.91	3.95

図 3：それぞれの作文の評価項目ごとの分析

それぞれの作文評価シートを分析すると、全般的な作文の印象とその項目の評価と少しずれていることがわかった。ここでは全回答の平均値が示されている。例えば、ID 1 (BOS05) の作文はアイデアがそれほど面白くなかったから全般的な印象が下がったようだが、内容と構造がとてもよく評価された。面白いことに ID 3 (JAP08)、日本の大学生の作文の内容は学習者にはあまりわかりやすくなかったようだが、言葉の正しさに注目されたようだ。そしてここであまり大切に思われていなかったアイデアの新しさがかなり全般的な印象に影響しているのではないかとわかると思う。

## 2.4 活動後のディスカッション

読解と評価の活動を踏まえ、以下の 3 点についてディスカッションを行った。

一つ目は「読んだ作文の中で、どの作文が一番「いい作文だ」と思ったか。それはなぜか」、二つ目は「いい作文の条件とは何か」「読んだ後でその考えが変わったか」、三つ目は「他の人の書いた作文を読んだ経験について」である。

まず一つ目の質問についてであるが、ここでは、ID 4 (GER59) の作文が特に「構成の良さ」、「わかりやすさ」、「簡潔さ」があり、とてもよかったという意見が集まった。

また、読んだ作文の改善点について話が発展し、「論点が多すぎて説明不十分の作文は読みにくいので、論点を絞り、それについてよく説明した方がいい」、「結論で自分の考えを明確に伝えた方がいい」、「繰り返しが多すぎると読みにくい」、「文法力が足りないと、考えをうまく表現できないので、やはりテーマ相応の文法力も必要」との意見が挙がった。

次に、「いい作文の条件とは何か」について改めて話し合った。「構成や話の流れがはっきり、しっかりしていることが最も大切」「自身の意見を十分に伝えられているか、何について論じているかが明確か」「自分の考えを述べるだけでなく、テーマの関連情報について調べて書くことも大切」など、構成

や内容についての意見や、「使う語彙や文のスタイルがテーマにふさわしいか」「事実か意見かを明確にするような文法が使えているか」など、日本語の使い方についての具体的な意見も挙がった。

また、他の人、ひいては他の国からの人の作文を読むという経験について聞いてみたところ、「共感しながら読むことができた」「他の人の選んだテーマが自分と違っておもしろく、新しい発見につながった」「他の国も自分たちと似たような問題を抱えていて、自分の国が特別ではないと思った」など、テーマについてより深く内省や気づきにつながったことがうかがえる意見や、「他の人の日本語がとても上手だったので、自分も頑張らなければ」と日本語力向上のための刺激になったという意見もうかがえた。また、ここで特に興味深いのは、「他の人の日本語の誤りを通して、自分も同じ間違いをしていたと気づき、学ぶことができた。この経験を通して、他の人に日本語を教えるなど、自分も何か役に立てるかもしれない」という意見だ。特にボスニア・ヘルツェゴビナのような学習者の少ない地域では、中上級レベルになるとクラスメートも2-3人に減ってしまい、教室内でのピアリーディングもいつも決まった狭い範囲の仲間同士になってしまいがちだが、このような現場での、コーパスを使ったピアリーディングの広がりの可能性を見ることができた。

## 2.5 活動後のアンケートについて

活動後に事前アンケートと同じ「よい作文の条件」を聞くものと、活動全体のフィードバックのためのアンケートの二つを実施した。

### 2.5.1 良い作文の条件に関するアンケート

事前アンケートと全く同じものを実施し、読解・評価・ディスカッションという活動の後で考えに変化があったかどうか見てみた。

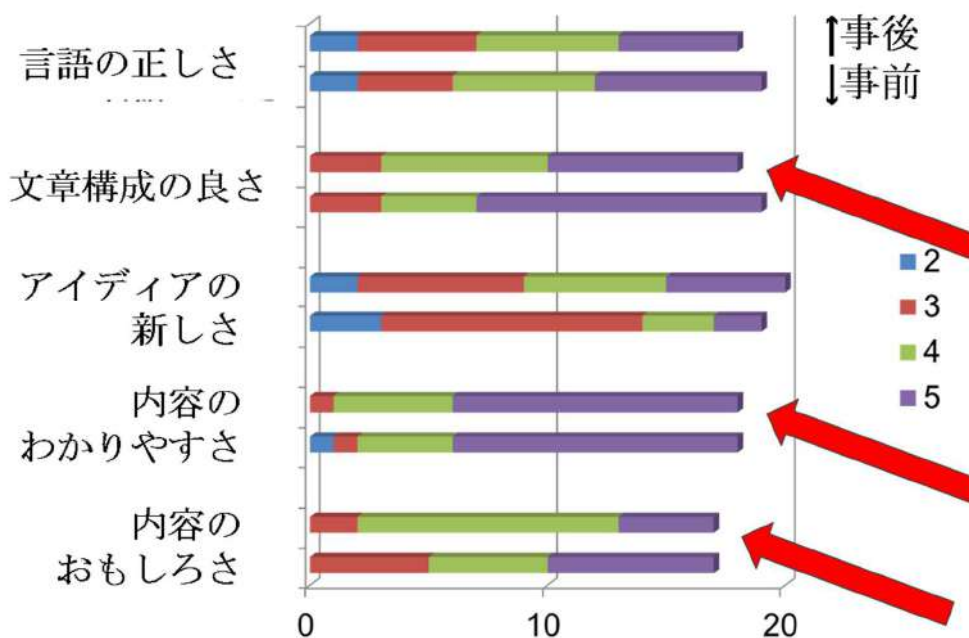


図4: 「良い作文の条件」に関するアンケート - 事前と事後の比較

図4で、各項目のうち、下の棒が事前アンケートの結果で、上の棒が事後アンケートの結果で1が最も評価が低く5が最も評価が高いことを示している。この結果を見ると、「内容のわかりやすさ」「内容のおもしろさ」「文章構成の良さ」が高く評価されており、これは事前アンケートと大きく変わっていないようだ。事前のアンケートと比べて最も変化があったのは、「アイディアの新しさ」である。評価5と4の割合が増えていることがわかる。

### 2.5.2 活動全体のフィードバックアンケート

まず「他の日本語学習者の作文を読むのはどれぐらい面白かったか」という質問に対して、ほとんどの参加者はとてもよかったと答えた。

次に「他の日本語学習者の作文を読むのは自分の日本語学習に役立つと思うか」という質問で、とても役にたつと役に立つと答えた学生は8割ぐらいだった。

「「住みやすい国」について書かれた他の学習者の作文をもっと読みたいか」という質問に対して9割が「はい」と答えた。他の人の日本語力が見られたり、日本語の学習に役に立ったりするだけではなく、テーマについていろいろな人の考えを読むのが面白いという意見が挙がった。

そして、最後にはディスカッション活動の評価をしてもらって、全員が「とてもよかった」と「良かった」を選んだ。

このように、今回の活動は学習者にとってもポジティブに受け入れられたことがわかる。

### 3. まとめと今後の課題

さて、ここまで「住みやすい国コーパス」の作文を利用した教室活動とその効果についてみてきた。

ディスカッションでみられた意見やアンケートの結果から、先述した本コーパスの複言語・複文化主義への3つの貢献①様々な背景を持つ他者視点の経験を得ること、②自分自身を内省する機会を得ること、③様々な語彙の使い方や異なる表現方法の経験を得ること、全てについて肯定的な結果が見られたように思う。

特に、他者の作文を「評価」しながら読むことにより、よりよい作文の書き方に対する内省につながった。母語話者の作文でなくても、文法や語彙の内省が自分の日本語力へのモニタリングにつながるだろう。それに、同じテーマの作文を読むことにより、そのテーマについて客観的な視点から考察が深まるだろう。

本コーパスは今後も様々な用途で教室活動への活用できるだろう。例えば、「作文そのもの」ではなく、今後「住みやすい国」という「内容」をテーマにデータを使用してみたい。また、作文データをどのように語彙と表現の学習に生かせるかも試していくとよいと思われる。

参考文献：

村田他（2024 予定）「住みやすい国コーパスから期待される語彙教育への活用性：一語彙教育のための基礎的調査―」『*Japanisch als Fremdsprache* 8』, XX-XX.

村田裕美子・トリコヴィッチ, ディヴナ・李在鎬（2022）「ドイツ・セルビア・日本の大学生が考える「住みやすい国」とは何か―複言語・複文化能力の構築を目指す作文活動―」『ヨーロッパ日本語教育 25』, 275-286.

野田久・迫田久美子編（2019）『学習者コーパスと日本語教育研究』くろしお出版

李在鎬、石川慎一郎、砂川有里子 (2018) 『新日本語教育のためのコーパス調査入門』 くろしお出版  
SAKODA, Kumiko (2018) A study on interlanguage of L2 Japanese based on learners' corpora: Japanese verbs in I-JAS.  
In Ueyama, M. & Srdadanović. I (eds), *Digital resources for learning Japanese*. Bologna: Bononia University Press,  
pp.147-169